

自ら心に火を灯し、 今を伐り拓いて未来へと耀く！

内部から湧き上がるような「情熱」や「積極性」、「使命感」が求められている。

4月3日と5日、大阪と鳥取で「2017年度経営方針発表会」が行われました。小野社長は、今年度の目標として売上高「600億円達成」を掲げ、既に発表している中長期目標である、5年後の売上高「1,000億円」と「点火コイル世界一」の道筋しました。

そして、その実践方法として、昨年に引き続き社長三大方針を提示し、わが社の在り方について熱く語られました。社長に就任して約9カ月の振り返りと、今後、どのような方向へ進むのかなど、お聞きしました。

**社員が働くことを通じて、
幸せになれる会社であること**

——2016年6月に社長に就任して9カ月。これまでを振り返っていかがですか？

小野社長 社員の皆さんにとっては、社長が変わり、いろいろな不安や不満もあったでしょう。それでも、私個人としても縁のあるダイヤモンド電機の社長を引き受け、まずはとにかく生き延びさせようと走り回ってきました。今は、しっかりと生き延びさせ、再生ひいては再建に向けて社員皆で生き残っていく局面を迎えています。

えつつあると自負しています。社員の皆さんも、「最悪の時期は脱したな」、「良い方向に変わってきたな」、「ダイヤは大丈夫だな」と少しでも実感してくれていたら嬉しいですね。

——その一番の変化が、昨年10月に制定した「経営理念」ですね。

小野社長 既にいろいろなところでお伝えしているので詳しくは述べませんが、経営理念とは会社の在り方を表した憲法のようなもので、わが社の魂である社是と並立するわが社の心臓でもあります。また、永遠に追い求める理想の姿でもあります。御客様や御仕入先様、銀行など、わが社に関わる全ての方々に信頼され、「一緒に仕事をするのは」ダイヤじゃなくちゃ（困る）と言ってもらえるように、皆がその想いで仕事をしてゆけるように、この経営理念を追求していかねばなりません。

——そして、「中長期経営計画」も策定されました。

小野社長 これも、経営理念同様、既にいろいろなところでお伝えしているので詳しくは述べませんが、現在の約倍を目指す「売上高1,000億円」、日本初かつ祖業でありながら強大な競合ひしめく市場での戦いになる「点火コイルシェア世界一」は、それでもわれわれの生存条件ではありません。われわれはこの目



2017年度経営方針発表会（大阪本社）。わが社の在り方について熱く語る小野社長。

標を達成するだけではなく駆け抜けて、更に未来へと
耀かねばなりません。

——社長三大方針は昨年の第二四半期以来、同じ方針を
掲げられています。

小野社長 経営理念の追求、中長期計画の達成のため
に、絶対に必要な方針だと信念を以て継続を決めてい
ます。引き続き、つくる側の理論ではない「品質第一」
ではなく、お客様にとって信頼性のある「お客様要求
品質第一に徹する」ことで、まずはわが社の信頼を取
り戻し、その上で、5年後、更にその向こうへと信頼
を積み重ねて前進してゆきましょう。

——中長期計画では、投資拡大ということも考えられて
いるのでしょうか。

小野社長 社長就任後、最初に実施した7月度全体朝
礼で述べた通り、「人と技術に投資」します。私が考え
る最大の設備投資は、人への投資。加えて、技術への
投資です。ダイヤモンド電機は製造業、すなわち「も
のづくり」で生き残ってきた会社です。その「ものづ
くり」を軽視どころか、もはや無視するかのような愚
かさでは、必ず会社をおかしくするし、結果、昨年6
月に私が来る前に、会社存続の危機に瀕してしまっ
たのは当然の事ですね。

——その投資の表れでしょうか、既に技術を中心とした
経験豊富な十数名の方々が入社しました。

小野社長 これは偶然もあつたのですが、非常に優秀
な技術者方々を採用することが叶いました。わが社で
一意専心頑張ってきた仲間達と、他流試合を生き抜い
てきたこの方々が、未来に向けて耀く為に同じ耀く仲
間達として切磋琢磨することは、正に、ダイヤモンド
が磨かれることそのものだと思います。

——なるほど、切磋琢磨で、正にダイヤモンド同士が磨
き合うんですね。

小野社長 だからこそ、外部からの刺激だけではなく、
内部からの湧き上がるような情熱や、積極性や、何よ
り使命感が求められていると考えています。また、そ
の切磋琢磨の場については、私自らが環境整備の一環
としてつくり上げていきます。

忍耐ばかりではなく 飛躍に向けて挑戦する組織へ

——投資のためには、ムダな支出をなくす努力も必要だ
と思います。

小野社長 投資の有無にかかわらず「経費節減に徹す
る」ことは企業として当然のこと。その当然のことが
私が来る前は「ものづくり」同様全く以て無視されて
いたのですから、会社存続の危機に瀕するのはこれま
た当然のことですね。だからこそ、今は私自身が「一
円決裁」を行っています。「監視ではないか」「管理職
が委縮するのではないか」という声も全く無い訳では
ありませんが、まず、「監視」というのは絶対に違
逆です。これは監視ではなく「チェック」であり、チェッ
クとは「経営の執念の顕れ」です。仲間を守るための
ものです。会社にとって大切なのはまずは「ヒト」と「カ
ネ」、もちろん、「モノ」も大切です。そしてそれらに
ついては、社長が全責任を負うからこそその専権事項と
して必ず社長自身が決定します。当然ながら「一元決裁」
もその率先垂範の姿勢の表れだと、改めて、社員の皆
さんには理解してもらい、一緒になって「経費節減に
徹する」、ひいては原価低減に全力で取り組んでほしい
ですね。

そもそも、社員が「カネ」の使い方を間違えば、そ

れは会社にとっても本人にとっても大きなマイナス。
製造現場同様「ヒト」「ガミス」を起こさない仕組みをつ
くり、その上で、忍耐ばかりではなく飛躍に向けて挑
戦する組織をつくり上げていく。

——最後に、今年迎えた創業80周年についてお聞かせく
ださい。

小野社長 「温故知新以て師と為るべし」。ダイヤモン
ドものづくり復興を掲げてはいますが、これは決して過
去に戻そうとしているわけではありません。人は過去へ
は絶対に戻れません。また、変えることもできません。
変えられるのは、今と自分だけです。過去、私が来る前
から遡ること二年間の乱脈無軌道によって、多くのダイ
ヤモンドの仲間達が人生を狂わされ、傷付いたことは事
実です。但し、これもまた残念ながら既にダイヤモンド
電機の歴史の一部。われわれは今こそそれぞれ自ら心に
火を灯し、顔を上げ、前を向き、自らの脚で立ち上がり、
自らの手で今を伐り拓く。そして、お互いを磨き上げ、
その摩擦を以て熱を帯び、未来に向かって耀くのです。

社長三大方針

1. お客様要求品質第一に徹する
2. 経費節減に徹する
3. 環境整備に徹する

経営理念（2016年10月制定）

私達はものづくりを通じてお客様の発展に寄与し、
信頼を積み重ね、社会の豊かさに貢献することで、
多面体に耀き働く仲間達の物心両面の幸せを追求します。